



地域の福祉と、安全、安心な街づくり

山口県 防府遊技場防犯組合
「地域福祉基金の贈呈」事業



組合総会の場で社会福祉協議会に寄付金を贈呈

誰もが安心して暮らすことができる街を望んでいる。安心に対するイメージは人それぞれだが、社会福祉が行き届いた街、犯罪の少ない街が、その基本となることは間違いないだろう。そのような街づくりは行政だけに委ねられるのではなく、地域住民が参加してこそ意味がある。その地域住民には、当然、企業や団体に属する人も含まれる。娯楽やレジャーを提供する役割を果たす遊技業として、例外ではない。否、地域の人々に認知されなければ存在できない業界であるゆえ、街づくりに積極的に参加する義務があるともいえる。

山口県の防府遊技場防犯組合では、福祉の街づくりを目的として1986年(昭和61年)に設立された「防府市地域福祉振興基金」の趣旨に賛同し、同基金を支えていこうと決意。組合加盟ホールに「善意の箱」を設置し、そこに寄せられた来店客、従業員、経営者からの寄付金をまとめ、毎年、組合総会の場で防府市社会福祉協議会に贈呈している。

これまで、毎年100万円(初年度は80万円、平成15年は組合設立50周年を記念して200万円)の寄付を継続し、その累計総額は昨年度までで2,280万円に達した。22年間欠かすことなく献金を続けていることで、防府市の社会



防府遊技場防犯組合組合長
梁川康成さん



防府遊技場防犯組合事務局
吉留良子さん

の根幹を支える息の長い事業



新聞に掲載された防府遊技場防犯組合の寄付金贈呈式



ホール駐車場で駐車中の車に子どもの放置をチェック

善意の箱寄付金明細

社会福祉協議会 H20.2

年度	寄付金額	備考	年度	寄付金額	備考
S.61	800,000		H.9	1,000,000	
62	1,000,000		10	1,000,000	
63	1,000,000		11	1,000,000	
H.1	1,000,000		12	1,000,000	
2	1,000,000		13	1,000,000	
3	1,000,000	教育振興活動 1,000,000	14	1,000,000	
4	1,000,000		15	2,000,000	創立50周年
5	1,000,000		16	1,000,000	
6	1,000,000		17	1,000,000	
7	1,000,000		18	1,000,000	
8	1,000,000		19	1,000,000	
合計				22,800,000	1,000,000

地域振興基金として青少年育成等に活用される

福祉事業にとって、その根幹を支える資金として今やなくてはならないものになっている。

この寄付事業と並んで、防府遊技場防犯組合が継続的に取り組んでいるのが「防犯パトロール隊」である。ホールには多くの人や車が参集し、また、現金が動く場所であることも事実。全国的には強盗や窃盗などの事件が発生し、駐車場では乳幼児放置による悲惨な事故もある。そのため、ホール内外から犯罪や事故の撲滅を図るとともに、駅周辺、繁華街、公園などにも活動の場を広げ、地域の安全、安心に貢献しようと、1994年(平成6年)に結成されたのが、防犯パトロール隊である。以来、14年の長期にわたって、中断することなく活動が続けられている。

具体的な活動としては、毎月第3火曜日の午前10時から防府警察署の警察官2～4名とともに組合傘下ホールの店内外、駐車場の防犯診断を行った後、JR防府駅周辺や市中の公園の清掃などを行っている。パトロール隊

員の指名にあたっては、各ホールから上申された担当者に対し、組合長と警察署長が協議のうえで、連名の委嘱状を交付。警察官同行ということで、暴力団員に対する対応や少年補導活動も共同で行っている。

毎月6名が参加するパトロール時には、組合作成の統一ジャンパー、腕章を着用しているため、地域住民に対する認知度も高く、地域社会に深く根付いた活動として市民からも評価されている。パトロール隊員として、この活動に参加した各ホールの従業員にとっては、社会人としての自覚がこれまで以上に高まるという効果もあるようである。

また、毎年10月に実施される「全国地域安全運動」期間中のパトロール後は、組合長以下30名が参加して、大々的な公園清掃を実施。その模様は防府警察署が市内全域に配布しているミニ広報紙『ポリスニュース天神山』に犯罪の起きにくい環境づくりの例として取り上げられ、防府市民に広く紹介されている。

防府遊技場防犯組合の社会貢献活動の最大の特徴は、防府市地域福祉振興基金への寄付事業はもちろん、防犯パトロール隊にしる、その継続性にある。その結果、地域に欠かせないものとして認知されていることが大きい。「ローマは一日にしてならず」という故事が示すように、誰もが安心して暮らすことのできる街は、一朝一夕で実現するものではない。地道な積み重ねこそが、その道を開くのではないだろうか。